



NPO法人 災害救助犬ネットワーク  
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

# コンセプト

災害が起これば、いまの組織・体制で機能し得るか、役に立つ対応ができるのか、それぞれのボランティアが自問自答の中、地域、能力、組織的にも災害に対応できる体制づくりを目指して新しい全国的な組織づくりについて2007年夏から47名で議論をはじめました。課題は山積しています。

災害現場で有機的に機能するネットワーク化を目指し協力して乗り越える意思を確認し、実務的な個々の課題にはさらに広く意見を聞きながら、根気よく進めていくことにしています。

新し組織の基本コンセプトは、次の通り概要に確認しました。(2007.7.16)

- 1、実動できる組織であること
- 2、訓練会・認定審査会の広域的な実施
- 3、組織・個人間に拘らず交流、連携、協力を進める
- 4、災害救助犬の空白地帯をなくするための広報活動
- 5、地域間の連携、行政との対応業務
- 6、情報の一元化と共有など地域だけでは行えない事業

実働を考えた場合、ある地域だけで活動していても、その地域が被災地となれば機能しなくなり、隣接地域のつながり、人とのつながりなど日常的な交流、情報交換がなくては、いつどこで起こるかわからない災害には機能しないことは過去からの教訓です。

私たちは「救えるはずの命を救うために」を掲げて活動し、結実させるには、すべての枠を越えて知恵を出し合い、協力し合い行動することしか実現できないと思っています。

これは災害救助犬のボランティアが共有している課題であると捉え、その数多くの課題には、開かれた前向きな議論、行動の中で解決して行かなければならないと考えています。

わが国では欧米に比べて行方不明者を捜索する手段としての災害救助犬は社会的認知度が低く、頭数が不十分なうえに中途半端な訓練で持たなければならない能力も未熟であると思っています。活用されない現実を真摯に捉え、災害時・平時を問わず、救える命を救う体制が整って居ないという視点で活動して行きます。その方向性を責任もって具現化するために、NPO法人として組織して社会の理解がなければ成り立たないことを真摯に捉えています。

このような立場から、私たちは自分たちで犬を育て訓練しながら狭間で捜索に参加するのみでなく、将来に亘って継続的に多くの人命を救助するために、日本の防災、救助の仕組みに災害救助犬が組み込まれる必要性を考えています。捜索、救助、救命まで整わなければ人命救助は叶えられません。まだ基盤整備の段階ですが、NPO法人としての責任、設立の志を忘れず、社会とともに活動、発展して行くためにも、広く正しく認知していただくことが支えとなります。

現状では、地域組織としてのNPO法人、少数の訓練グループ、1人だけのところもあり、それぞれ事情が違って、「救えるはずの命を救うために」協同し、災害救助犬に関する多様な課題に対し、相互の信頼、寛容な精神で協力し合い目的を実りあるものにしたいと考えています。